

令和4年度 徳島市地域ケア推進会議 議事要旨

1 日時

令和5年3月27日（月）午後7時から

2 場所

オンライン（Zoom）会議

3 概要

議事

(1)取組報告

①地域包括ケア推進に向けた令和4年度の取組と方向性

意見交換で出た意見

- ・ 委員：ボランティアポイントについて、1,000円と500円差別化する理由は。金額を上げるのか。
- ・ 事務局：500円ではガソリン代にもならないといった意見もあり、1,000円に増額する予定である。
- ・ 委員：いきいき100歳体操の参加者について、市内に34か所開設されているとのことであるが、平均何人参加しているのか。
- ・ 事務局：少ないところは、数人のところもいるが、活動の要件となっているので少なくとも5人以上は参加している。広い会場に大勢集まっているところもある。
- ・ 委員：立ち上げ時は多いが次第に減ってきていないのか。
- ・ 事務局：立ち上げ時は参加者が多いかもしれないが、意欲が続くように半年に一回理学療法士が講師として参加しているので、モチベーションの維持につながっているが、やはりコロナが原因で減少傾向ではある。
- ・ 委員：体操教室を公民館でやっているが、コロナ禍で参加者は減っている。一度休むと体力が低下してしまい、そのままやめてしまう人がいる。3分の1ぐらい来られなくなった。どんな形であれ体操や運動は継続する必要がある。
- ・ 委員：市内5か所のコミュニティセンターで体操教室などを実施している。新型コロナウイルスにより断続的に休止していた。休止前の人数は程遠いが、徐々に戻りつつある。高齢者なので少し休んだだけで、体力が落ちるので、再開時は簡単な運動にするなど講師も工夫して実施している。
- ・ 委員：地域リハビリテーション活動支援事業の件数はコロナで実績は減っているか。
- ・ 事務局：今年の9月までは受付を休止していたが、各介護の事業所での研修に利用されることや、通いの場への派遣も始まったので、コロナ禍前程度に戻りつつある。

② 認知症の人に対する本人ニーズにあった社会資源の提供と社会的役割の創出について

意見交換で出た意見

- ・ 委員：やる気のあるサポーターやキャラバンメイトはどの程度の人数か。
- ・ 事務局：具体的な数を計数しているわけではない。そのような気持ちのある人をつなげる場所が認知症カフェ以外なかったのだが、今年度末までに3チームのチームオレンジが結成された。ワークショップを3月に開催したが、そのなかでも活動場所への意見は出ていた。
- ・ 委員：活動への意欲があるにもかかわらず活動する場がないのはとてももったいないので、登録制度などを検討し、活動につながる取り組みを進めてほしい。
- ・ 委員：民生委員は毎日見守りをしているが、コロナ禍は遠くでの見守りしかできなかったのが、認知症の人が地域内でどれだけ広がっているのか民生委員も分かっていないかと思う。コロナ禍が解消され訪問活動が解禁になると、この3年間のブランクはあるが、前に進んでいくのではないかと考えている。
- ・ 委員：認知症サポート医として、認知症初期集中支援チームとして携わっている。困難事例を解決していく立場であるが、現在サポート医が3人なので、来年度は4人に増やして取り組んでいきたい。
- ・ 委員：地域でのまちづくりなどに携わっており、いろんなイベントや研修会などやっているが、認知症が疑われるような人がいる場合は、どう対応したらよいか。どこに言えばいいのか悩む。その時の対応の仕方がわからない。
- ・ 地域包括支援センター：地域住民や、民生委員から地域包括支援センターにそういった相談を受けることがある。そういう時に、地域包括支援センターは認知症の疑いのある高齢者の家を「高齢者の家を訪問で回っている」と伝え訪問し、認知症のテストなどしている。地域で認知症の疑いがある人がいれば、地域包括に連絡いただければ対応する。

(2) 議題

地域課題からの提案

通いの場づくり補助支援及び移動支援（住民主体訪問型サービスD）について

意見交換で出た意見

- ・ 委員：「とくし丸」を利用している人は多くいると思う。利用している地域の人の話を聞くと、歩けないときにこういったシステムがありがたいと言っていた。
- ・ 委員：買い物について、移動スーパーはありがたいと思うが、コープなどは家の前まで来てくれるので、それとの連携も考えれば、より高齢者が暮らしやすくなるのではないか
- ・ 委員：移動手段は徳島にとっては重要だが、若い人はインターネットで通販を活用しているので、高齢者も利用できればいいと思う。その他の意見については、フレイル予防サポーターもできているので、活躍できる場が広がればいいと感じた

- 委員：私の住む地区は津田地区だが、地区の面積は2km²でそこまで広くはないが、スーパーは3件ある。便利な地区だと思う。「とくし丸」も来ているので、今のところ特に不便なところはないが、徳島市全体で考えれば上八万や多家良など、必要な地区はあるかと思う。
- 委員：通いの場より充実させていくことが、フレイル、健康寿命の延伸につながるので推進してほしい。しかし通いの場はなかなか自分の住む地区以外のところには行けないことがある。デイサービスなど介護サービスの事業は自分でどこに通うか選べるが、住民運営の通いの場は選べないことがある。地域の仲良しグループができた時点で、排除の理論が働いて行きにくいといった問題もあるので、行政は枠組みを考える必要がある。

移動支援は公共交通機関との関係や、運転手の責任の重さなど、なかなかうまくいかないことが多いので、タクシーチケットなどが効果的だと思う。

地域包括ケアシステムについて、徳島県は既に2015年に65歳以上3人に1人、75歳以上が5人に一人になってしまっているが、人口が減るとどうなるかということ、人々の物理的な距離が遠くなるので、それを縮めていくための工夫として、デジタルトランスフォーメーションやSNSを活用してほしい。

認知症の予防は基本的にできないので、やらないよりはやった方がよいが、認知症予防体操と言ってしまうと、あたかも確実に予防できると、言葉がひとりあるきしてしまうので、ので言葉遣いに注意が必要だと考える。
- 委員：町内会に若い人が入らない。高齢者が施設に入所するなど町内会員は減っているの、地域交流スペースを作った方がいい。移動支援について、神山町が町営バスを廃止してタクシーに助成するというニュースがあったが、地区によってはタクシーの方が効果的な場合もあると思った。コープもよいと思う。重いものも。併用するのもいいと思う。

地域包括ケアシステムの構築のため、これからいかに医療と介護の連携を工夫していくかが重要で、診療報酬と介護報酬の同時改定があるので、高齢者の医療、介護サービスが円滑に行われるかが重要である。
- 委員：移動支援について、住んでいる場所によって必要性が変わってくる。外出する目的が何なのかが重要。買い物はインターネットでできるが、高齢者などはインターネットが苦手な人が多いと思うので、情報が入ってきにくく、行動にも制限があるので、在宅に来るのを待っていると思う。いろんなサービスが家に来てくれる仕組みが必要かと思う。

元気な高齢者がフレイルにならないようにそれぞれ努力されていると思うし、地域のコミュニティや老人会の方もお世話していただいているので、情報がたくさん広まっており、地域の高齢者も感謝しているかと思う。

自転車運転でヘルメットの着用が義務付けられるが、自転車を運転していなくても、物が載せられて便利なので高齢者もよく利用している。佐古地区あたりは自転車道があるが、それ以外はあまりないので、車道は危ないので、自転車道を拡張してほしいと考える。
- 委員：通いの場への参加者には男女差がある。女性は参加しやすいが、男性はなかなか参加しにくい。男性へのアプローチが必要かと思う。

移動支援について、通院の付き添いが必要な方も多いたと考えた。適切な服薬などそれを支援してくれる人がいればよい。
- 委員：移動支援については法的な壁があってあきらめた。通いの場については、最近駄菓子屋始めた。子供たちの行き場を作るため。そこに元気な高齢者が参加してくれたら多世代交流の通いの場になると思う。ボランティアも活動しやすくなると思うので、タクシーチケットはよいと思うので、

なんらかの形で行政がバックアップしてくれたら。

- ・ 委員：移動支援についてはタクシーチケットの配布がいいのではと考える。買い物は、判断能力のある人は大丈夫だとは思いますが、認知症で介護を受けていなかったら買い物は厳しいのではないかと。移動手段について、免許書返納した人の車の活用などできないか、ボランティアでは難しいかもしれないが、町内会を活用して仕組みが作れないかと思う。
- ・ 委員：高齢者のなかには医療機関への受診の機会を楽しんでいると感じられる人も見受けられる。病院、薬局の待合室での会話を楽しんでいる。こういった風景を見ると、地域での通いの場は大切だと思う。
- ・ 委員：予算もあると思うが、タクシーチケットは効果的だと思う。買い物など電話一本で来てくれ、話し相手になってくれるような仕組みがあれば便利と思う。
- ・ 委員：通いの場は地域の中で身近なところであれば安心につながる。通いの場への市の補助金制度が始まるので、それを活用し増えていけばよいと思う。その通いの場でお買い物ができる、相談に乗れるなど、支援が行き届くことになればいいのかと思う。現役世代は参加が難しいが、中学生や学生を巻き込んで企画運営に携わっていただくなど、いろんなことを経験する場になるので、多世代交流が良い刺激にお互いになると思う。
- ・ 委員：認知症の初期の方はなかなかデイサービスに行きたがらないが、働きたいという声があるので、障害者就労継続支援所などの場所が、高齢者に対してもあればよいと思う。通いの場でも働けるような取り組みを進めていただくとともに、そのような場合には人手がいるので、認知症サポーター、キャラバンメイトが関わっていただいて、進めていただければ。
- ・ 委員：シニアクラブは100程単位クラブがあり、毎月集まっている。ぜひシニアクラブを広めていただければ。シニアクラブに興味があれば紹介できる。各地域のクラブには入りたくないが、徳島市のシニアクラブに参加したいといった方へも対応は可能である。

総括

- ・ 委員：高齢者の問題を扱うのが地域ケア推進会議の趣旨だが、これからは高齢者だけの問題だけではなく、子ども、障害をもった人など様々な人、地域での共生をどう図っていくかに視点を変えていく必要があるのかと思う。通いの場や居場所づくり、買い物難民の問題への対応は、様々な主体の連携が必要。市の予算も限られているので、選択と集中で、どこに重点をおいて進めていくか考えていく必要がある。

以 上